

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	火災現場で出火建物の窓ガラス破壊に伴い、左中指を切創した。
3. 体験した事例の中心的要素	建物火災にタンク車隊として出動する。 他の隊員と共に三連はしごを出火建物2階に架梯し、左手で万能斧を用いて窓ガラスを破壊したところ、勢いで左手が窓の奥側へ入ってしまい、割れた窓ガラス片で左中指を切創した。
4. 体験した事例の原因・理由	開口部設定要領の知識不足及び活動に伴う焦り

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年12月23日 午後0時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：木造2階建物火災現場
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	切り・こすれ
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[木造建物]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	破壊活動、開口部の設定及び解放
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[26]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4] 年、階級[消防副士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A	火災出動	
経過2	A	現場到着	
経過3	A	出火建物西側に三連はしご架梯し、登梯する	
経過4	A	万能斧にて窓ガラスを破壊し、受傷する	
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知らなかった。 指揮者が適切に指示しなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

帰署後、他の職員にも今回の負傷事故についての状況を詳しく説明して、窓ガラスを破壊する時の要領を再度周知、確認した。

また、隊員に指示を出す隊長は、隊員に対してただ破壊しろではなく、隊員のスキル、心の焦りを把握して、具体的な指示が必要な隊員なのかを適確に判断する。そのためにも、常日頃から訓練、ミーティング等で隊員個々の能力、考え方を隊長は把握する必要がある。

○装備・資機材の対策について

--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--

事故発生状況図

